

## 再生加熱アスファルト混合物用バインダー（再生用新アスファルト）

**SA 150～200**

昭和瀝青工業株式会社

SA 150～200は、舗装用の新アスファルトで、不足するアスファルト量を補うためや旧アスファルトの性状を回復させるために再生加熱アスファルト混合物や再生加熱アスファルト安定処理路盤材の製造時にプラントで添加するプレミックスタイプのアスファルトです。

**特徴**

1. 再生用新アスファルト 150～200 の品質規格（舗装再生便覧 平成 22 年版）に適合します。
2. オイル等を配合しており、再生骨材中に存在する旧アスファルトの針入度などの性状を回復します。
3. プレミックスタイプのため、再生添加剤の投入手間が省けます。
4. 貯蔵温度、期間、安全管理面は通常のストレートアスファルトと同様の条件で取扱いできます。

**適用混合物**

再生密粒度（13）での再生骨材混入率の目安は、  
 一般用（再生アスファルト 40～60）については 55～75%、  
 積雪寒冷地用（再生アスファルト 60～80）については 40～55%です。  
 なお、再生骨材混入率は必ず配合設計にて事前に確認をお願いします。

**使用上の留意点**

1. 配合設計は、設計針入度または設計圧裂係数への調整を新アスファルトで行う場合に準じます。
2. 混合物の製造、施工方法は新規アスファルト混合物と同等です。

表-1 バインダー性状（例）

項目	SA 150～200	社内規格 (新アスファルト 150～200) ※1	
針入度 (25℃)	1/10mm	190	150 を超え 200 以下
軟化点	℃	38.0	30.0～45.0
伸度 (15℃)	cm	100+	100 以上
トルエン可溶分	%	99.62	99.0 以上
引火点	℃	338	240 以上
蒸発後の質量変化率	%	0.01	1.0 以下
密度 (15℃)	g/cm <sup>3</sup>	1.033	1.000 以上

※1 舗装再生便覧(平成 22 年) p13 表-2.3.3

表-2 混合物性状（例）

混合物種：再生密粒度（13）再生骨材 45%

項目	性状例	基準値※2	
温度℃	混合	150	—
	締固め	140	—
マッシュル	密度 g/cm <sup>3</sup>	2.369	—
	空隙率 %	3.8	3～6
	安定度 k N	11.715	4.90 以上
圧裂	70-値 1/100cm	38	20～40
	圧裂係数 MPa/mm	0.56	—

※2 舗装再生便覧(平成 22 年) p23 表-2.4.9